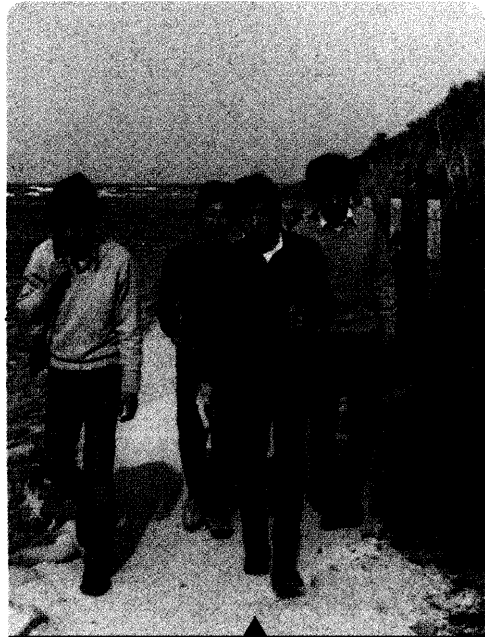


18歳の地図

友達もできず 一人ぼっちの 私を変えた 「憧れの大人」

高校に入学したのは70年安保の頃。うちの学校(都立志村高校)も学生運動が盛んで、校舎がバリケード封鎖されていました。授業もなく、代わりに全校集会やクラス討論をやるんです。陽気な学園ドラマの世界を想像していたので、想定外の事態でした。クラス討論はいつも隅っこで黙って聞いていただけでしたね。そんな学校に馴染めず、友達もできない。一人ぼっちでした。授業が終わってからやることと言えば、好きだったデパート巡りくらい。お気に入りには、池袋の百貨店。地下

の食料品売り場から屋上まで、えんえんと見て回るだけなんだけど、高校生活の淋しさをそれで紛らわしていたんです。彼女ができればこの暗



い青春を変えられる、と思つて、クラスの女の코をデートに誘ったことが一度だけあるんです。でも、どこへ行けばいいのかわからない。結局、ま

たデパート巡り。翌日登校すると、「何時間もデパートを歩かされた」と笑

い話としてクラス中に広まっていた。これには、傷ついたなあ。将来への希望も漠然としていたんですが、高3の時に赴任してきた美術

安齋肇

Hajime Anzai

71年、宮崎・青島海岸にて。「右から二人目が僕。修学旅行へ行かず、積立金を返してもらい級友5人で九州を廻りました。妙に真面目に計画して。今思えばまさに『ザ・青春旅行』って感じでしたね」

講師の影響で、美術大へ進学するという目標ができました。その先生は髪が肩まであって、明らかに異色でした。美術教室へ行くとき「一本吸うか？」って煙草を差し出してきたりする。RCサクセションの『ぼくの好きな先生』みたいで、憧れ

ましたね。不思議なもので美大という目標が定まった途端、暗かった高校生活も一転、生き生きしてきた。友人もできて、バンドも始め

あんざいはじめ

たり。いま振り返ると、学校に馴染めず、殻に閉じこもっていたのは、大人になるのが嫌だったから。それが、美術の先生のよいうなカッコよくて優しい大人になりたい、と思えることで大きく変わったんです。肝心の美大受験には失敗しましたが、18歳はちよつと遅めの青春を楽しんでいた頃でした。



イラストレーター●'53年12月21日、東京都生まれ。田中康夫の「やっしー」やNHK「みんなのうた」の「ホヤホヤヒー」などのキャラクターデザインを手がける。所属バンド、チョコベビーズのアルバム『Last Choko Box』が発売中